

第1部 2019年における世界の食料需給見通し

－世界食料需給モデルによる予測結果－

需給モデルチーム

1. はじめに

農林水産政策研究所では、昨年度から「世界食料需給モデル」を用いた10年後の世界の食料需給見通しを行っている。この「世界食料需給モデル」は、これまで農林水産省が世界食料需給見通しの試算に使用してきたモデルについて、世界の食料需給を巡る環境の変化を踏まえ、方程式、各種パラメータ等を抜本的に見直して、昨年度再構築したものである⁽¹⁾。

今年度は、昨年度採用した各種パラメータ等について精度を向上させるとともに、バイオ燃料原料用の農産物の需給が世界の食料需給を見通す上で無視することができない要因となっていることを踏まえ、当研究所の最新の研究成果を活用して、トウモロコシを原料とするバイオエタノールの需給に係る方程式をモデル内に組み込み、内生化させる改良を行った。その上で、この改良されたモデルを用いて、2019年における世界の食料需給の予測を行った。

2. 世界食料需給モデルの概要

(1) モデルの仕組み

「世界食料需給モデル」は、将来にわたる人口増加率や経済成長率について一定の前提を置き、価格を媒介として各品目の需要と供給を世界全体で毎年一致させる「同時方程式体系需給均衡モデル」であり、約5千本の方程式体系から構成されており、次のような基本的な考え方で構築されている(第1図)。

1) 消費量

各品目の消費量は、人口、実質経済成長率、当該品目及び競争品目の価格によって決定される。

2) 生産量

① 耕種作物の生産量は、収穫面積と単収によって決定され、そのうち単収はトレンドによって、収穫面積は前年の当該品目及び競合品目の生産者実質手取価格(生産者が市場で受け取る価格に財政からの直接的または間接的な補助金を加えたもの)によって決定される。

② 畜産物の生産量は、1頭当たり生産量と飼養頭羽数により決定され、そのうち1頭あたり生産量はトレンドによって、飼養頭羽数は前年の飼養頭羽数、当該品目及び競合品目の生産者実質手取価格及び飼料価格によって決定される。

3) 価格

国際価格は、需要と供給が一致する点において決定され、各国・地域内の価格は国際価格と内外価格差等を通じて決定される。

(2) 対象品目

本モデルの対象品目は、耕種作物6品目（小麦、とうもろこし、その他穀物、米、大豆、その他油糧種子）、食肉・鶏卵5品目（牛肉、豚肉、鶏肉、羊肉、鶏卵）、耕種作物の加工品4品目（大豆ミール、その他のオイルミール、大豆油、その他の植物油）、生乳・乳製品5品目（生乳、バター、脱脂粉乳、チーズ、全脂粉乳）の合計20品目である。

(3) 基準年次及び目標年次

今回の予測においては、10年後を予測するとの観点から2019年を目標年次とし、基準年次は昨年度の予測の基準年(2006年)から1年経過した2007年とした。なお、基準年2007年の数値については、2006年～2008年の3年間の平均値である⁽³⁾。

(4) 予測項目

予測項目は、品目別・地域別の消費量、生産量、純輸出入量及び品目別国際価格（実質及び名目）である。

(5) 対象範囲及び地域分類

世界全体（すべての国）を対象範囲とし、予測に用いるデータの地域分類は、地理的基準により8地域区分（小分類として31ヶ国・地域）に分類した（第1表）。

品目毎の需給の予測では、この8地域区分による予測値を紹介している。

また、「世界食料需給モデル」は、世界全体としての食料需給の基調を予測することを主目的とし、品目毎の需給の予測では、この8地域区分による予測値を示しているが、今回の予測においては、各種パラメータ等について精度を向上させたことから、この8地域区分に加え、参考値として品目毎に主要な生産・消費国の需給予測の結果も併せて示し、予測値の変動要因をより明らかにした。

第1表 モデルの予測に用いた対象国及び地域

地域区分	小分類（国名・地域名）
北米	米国，カナダ
中南米	アルゼンチン，ブラジル，メキシコ，その他中南米
オセアニア	豪州，ニュージーランド
アジア	日本，中国，韓国，タイ，ベトナム，インド，インドネシア，パキスタン，バングラデシュ，マレーシア，フィリピン，台湾，その他アジア
中東	中東
欧州	E27，ロシア，ウクライナ，その他ヨーロッパ
アフリカ	南アフリカ共和国，ナイジェリア，北アフリカ，その他アフリカ
その他世界	その他世界
合計	31ヶ国・地域

（6） 人口及び経済成長率

① 人口は、国連「World Population Prospects : the 2008 Revision」に基づき、2019年の世界人口を76億人と推計した。

② 実質GDPは、世界銀行「World Development Indicators 2009」、実質経済成長率は、IMF「World Economic Outlook 2009」に基づき推計した。その結果、1人当たり実質GDPの世界平均は、2007年の5,876ドルから、2019年には7,314ドルになると見込まれる。

3. 予測結果

（1） 試算の前提

耕種作物について現状の単収の伸びが継続し、作付面積の拡大についても特段の制約がないという前提で、予測を行った。

また、とうもろこしのバイオエタノール原料用の需要については、その需給関数をモデルに内生化したことで原油やとうもろこしの価格などにより需要が決定する仕組みとしているが、各国のバイオエタノールへの支援政策が、今後も継続することを前提として試算を行った。

（2） 試算の結果

1) 総括

2008年の世界的な金融危機による経済成長の低迷は一時的なものであり、途上国の経済成長は今後も高い水準で推移すると見込まれている。これを前提とすると、世界の食料需給は、中長期的には人口の増加、所得水準の向上等に伴うアジアなどを中心とした食

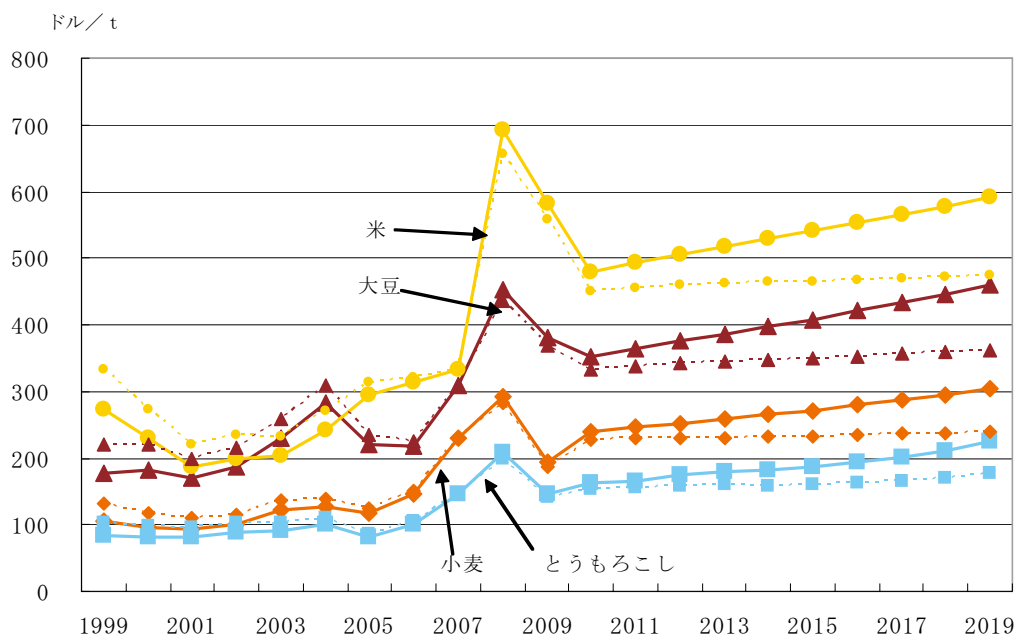
用・飼料用需要の拡大に加え、バイオ燃料原料用の農産物の需要の増大も要因となり、今後とも穀物等の在庫水準が低く需給がひっ迫した状態が継続する見通しであり、食料価格は2007年以前に比べ高い水準で、かつ、上昇傾向で推移する見通しである。

2) 試算結果（各論）

(i) 国際価格の予測

① 穀物・大豆

2007年から2008年にかけての耕種作物の価格の急激な高騰とその後の急落の後、とうもろこしの国際価格については、アジア、アフリカ等での人口の増加、新興経済国における畜産物消費の拡大を背景とした飼料用需要の増加に加え、バイオ燃料原料用需要の増加の影響もあって、2010年以降、価格の高騰前に比べて高い水準で、なおかつ、上昇基調で推移すると見込まれる。また、とうもろこしの国際価格の上昇の影響で、小麦、米、大豆等の国際価格も強含みで推移すると見込まれる（第2図）。



第2図 穀物及び大豆の国際価格の推移の予測
(実線：名目価格、点線：実質価格)

注1) 2009年までは実績値，2010～2019年までは推計値。

2) 過去の実質価格及び将来の名目価格については、2007年を基準年とし、共に小麦，とうもろこし，大豆は米国のCPIを，米はタイのCPI（いずれもIMFによる）を，それぞれデフレータとして用いて算定している。

② 植物油

アジア、アフリカ等での人口の増加、新興経済国における食料消費の質の変化に伴う油脂消費の拡大に加えて、バイオ燃料原料用需要の増大の影響もあって、穀物・大豆以上に国際価格は強含みで推移すると見込まれる。

③ 畜産物

畜産物の国際価格は、品目によって上昇率が異なるものの、アジア、アフリカ等での人口の増加、新興経済国における食料消費の質の変化に伴う畜産物消費の拡大や飼料となるとうもろこし等の国際価格の上昇の影響により、上昇基調で推移すると見込まれる。

④ 乳製品

バター、脱脂粉乳、チーズ等の乳製品についても、人口増加や新興経済国の経済成長により、需要が増加し、国際価格が上昇基調で推移すると見込まれる。

第1表 主要品目別に見た基準年の価格と目標年の価格

(単位：ドル／t (耕種作物)、ドル／100kg (畜産物)、%)

品 目	2007年 (基準年) の価格	2019年 (目標年)			
		実質価格	増減率	名目価格	増減率
小麦	223	240	8	302	35
とうもろこし	151	177	17	220	46
米	447	475	6	587	31
その他穀物	163	177	9	217	33
大豆	327	362	11	456	39
植物油	852	1,132	33	1,390	63
牛肉	261	279	7	370	42
豚肉	141	158	12	198	41
鶏肉	171	192	12	241	41
バター	265	389	47	477	80
脱脂粉乳	329	417	27	516	57
チーズ	380	412	8	517	36

注. 目標年における名目価格については、小麦、とうもろこし、大豆、植物油のうち大豆油、豚肉、鶏肉は米国のCPI、その他穀物、その他植物油はカナダのCPI、米はタイのCPI、牛肉は豪州のCPI、乳製品はニュージーランドのCPI (いずれもIMFによる) をデフレーターとして用いて算定している。

(ii) 地域別生産量、消費量及び純輸出入量の予測

主な品目ごとに、地域別の生産量、消費量及び純輸出入量の予測結果を以下に示す。また、それぞれの品目について、主要な生産国・消費国に関する予測結果も参考値として示した。

① 小麦

基準年では、北米、オセアニア、欧州が純輸出地域、中南米、アジア、中東、アフリカが純輸入地域となっている。

また、中南米、アジア、中東、アフリカいずれにおいても、生産量が増加するものの、それを上回って消費量が増加するため、目標年における純輸入量が増加する。こうした中で、アジアでは、中国における純輸出量の減少、インドにおける純輸入量の増加等が見込まれている。

一方、北米、オセアニア、欧州では、消費量の増加を上回る生産量の増加があり、いずれも目標年における純輸出量が増加する。特に、ロシアにおける純輸出量の大幅な増加が見込まれる欧州での増加が著しい（第2表）。

第2表 小麦に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	629.3	757.3	622.5	758.5	0.0	0.0
北米	82.3	92.7	39.4	44.6	42.8	48.3
中南米	24.2	30.7	33.6	40.3	-9.1	-9.6
オセアニア	15.7	23.8	7.4	8.5	9.6	15.3
アジア	238.0	293.2	255.5	326.5	-26.2	-32.6
中東	38.0	44.1	51.2	65.2	-12.8	-20.9
欧州	209.7	242.8	182.6	199.2	26.8	43.8
アフリカ	21.5	29.9	52.5	73.9	-30.8	-43.9
(参考)						
米国	57.7	63.6	31.2	35.1	25.6	28.6
中国	110.3	115.8	103.5	115.4	1.9	0.8
インド	74.6	104.5	73.4	108.4	-2.7	-3.9
E27	132.2	150.6	123.2	137.8	9.8	12.9
ロシア	52.7	64.1	38.4	40.5	12.9	23.7

② とうもろこし

基準年では、北米、中南米が純輸出地域、アジア、中東、欧州、アフリカが純輸入地域となっている。

アジア、アフリカ、中東では生産量も増加するが、それを上回って飼料用需要等の消費量が増加するため、目標年における純輸入量が増加する。アジアでは、中国が純輸出国から純輸入国に転じると見込まれる。他方、欧州では、E27等で生産量の増加が消費量の増加を上回ると見込まれ、目標年における純輸入量が減少する。

北米では、米国におけるとうもろこしを使用したバイオエタノール需要の増大等により消費量が大きく増加し、生産量の増加を上回るため、目標年における純輸出量が減少する。これに対して、中南米では、ブラジル、アルゼンチンにおいて、消費量の増加を上回る生産量の増加が見込まれ、目標年における純輸出量の増加が著しい。

第3表 とうもろこしに関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	763.9	966.3	758.8	971.0	0.0	0.0
北米	312.4	401.2	264.4	359.9	51.3	42.9
中南米	109.3	144.4	106.2	130.7	0.8	14.3
オセアニア	0.5	0.7	0.5	0.6	0.0	0.1
アジア	206.8	250.8	229.8	286.0	-29.3	-33.3
中東	5.5	7.8	15.0	18.9	-9.7	-11.0
欧州	77.9	96.1	83.0	96.6	-4.1	-0.2
アフリカ	51.4	65.3	59.9	78.3	-9.0	-12.8
(参考)						
米国	302.0	388.6	252.1	344.8	53.0	45.3
中国	156.5	185.3	148.7	190.2	2.0	-3.3
E27	54.6	68.7	62.6	73.9	-6.9	-5.0
アルゼンチン	19.2	22.6	6.8	8.6	12.4	14.1
ブラジル	53.4	72.9	42.7	56.4	8.7	16.8

③ 米

基準年では、生産及び消費の大半を占めるアジアと、生産量は少ないものの北米とが純輸出地域となっている。これに対して、中南米、中東、欧州、アフリカは純輸入地域となっている。

第4表 米に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	432.7	519.1	428.1	519.6	0.0	0.0
北米	6.4	8.4	4.6	5.2	2.0	3.2
中南米	16.6	21.9	18.2	21.3	-1.5	0.6
オセアニア	0.1	0.1	0.4	0.5	-0.2	-0.4
アジア	391.0	464.0	370.8	447.6	15.1	16.8
中東	2.5	3.0	8.2	10.2	-5.7	-7.2
欧州	2.3	3.4	4.1	4.3	-1.8	-1.0
アフリカ	13.9	18.4	21.7	30.3	-7.8	-11.9
(参考)						
中国	130.8	139.1	128.0	137.4	0.8	1.8
タイ	19.0	22.4	9.6	11.0	9.5	11.4
ベトナム	23.7	30.8	19.1	23.8	4.4	7.0
インドネシア	36.5	43.3	36.5	44.3	-1.0	-1.0
インド	96.3	126.1	89.9	122.3	4.3	4.0
バングラデシュ	29.6	39.7	30.6	43.8	-1.3	-4.1

アジア、北米では、消費量が増加するものの、生産量も増加することから、目標年における純輸出量は増加する。特に、アジアでは、タイ、ベトナムといった主要輸出国における純輸出量が増加すると見込まれる。また、生産量、消費量共に多い中国、インドは、目

標年でも純輸出国となるものと見込まれる。これらに対して、同じアジアでも、純輸入国であるバングラデシュは、目標年における純輸入量が増加すると見込まれる。

中東、アフリカは、消費量の増加により、いずれも目標年における純輸入量が拡大する。これに対して、中南米は、純輸入地域から純輸出地域に転じ、欧州も純輸入量が減少する。

④ その他穀物（大麦、ライ麦等）

基準年では、北米、オセアニア、欧州が純輸出地域、中南米、アジア、中東、アフリカが純輸入地域となっている。

中南米、アジア、中東、アフリカでは、生産量も増加するが、それを上回って消費量が増加するため、目標年における純輸入量が増加する。アジアでは、インドが純輸出国から純輸入国に転じると見込まれる。

北米、オセアニア、欧州では、消費量の増加を上回る生産量の増加があり、いずれも目標年における純輸出量が増加する。特に、欧州では、E27 が純輸出国から純輸入国に転じるものの、ロシアにおいて輸出量の大幅な増加が見込まれるため、目標年における純輸出量の増加が著しい。

第5表 その他穀物に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	275.7	334.4	274.6	334.7	0.0	0.0
北米	32.0	37.7	25.4	30.9	6.7	6.8
中南米	16.6	19.4	17.9	23.4	-1.3	-4.0
オセアニア	9.9	13.1	6.4	7.5	3.6	5.6
アジア	32.8	39.1	36.1	44.9	-3.2	-5.8
中東	11.8	14.0	22.8	28.6	-10.5	-14.6
欧州	123.1	143.9	114.4	127.5	6.6	16.5
アフリカ	49.6	67.1	51.7	71.8	-1.9	-4.6
(参考)						
米国	16.6	19.0	14.1	16.7	2.6	2.3
インド	20.3	24.6	20.0	27.1	0.2	-2.5
E27	76.6	86.0	74.7	86.2	1.3	-0.1
ロシア	28.7	36.2	25.7	27.1	1.6	9.1
ナイジェリア	18.1	26.0	18.1	25.4	0.1	0.6

⑤ 大豆

基準年では、北米、中南米が純輸出地域、アジア、中東、欧州、アフリカが純輸入地域となっている。

アジア、欧州では、生産量も増加するが、それを上回って消費量が増加するため、目標年における純輸入量が共に増加する。アジアでは中国、欧州では E27、それぞれにおいて純輸入量が増加すると見込まれる。

中南米では、消費量の増加を上回る生産量の増加により、目標年における純輸出量が

大きく増加する。中南米では、主要輸出国であるブラジル、アルゼンチンにおいて純輸出力が大きく増加すると見込まれる。他方、北米では、主要輸出国である米国において、消費量の増加が生産量の増加を上回ると見込まれるため、目標年における純輸出力が減少する。

第6表 大豆に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	223.7	291.4	227.2	291.9	0.0	0.0
北米	83.3	108.6	53.2	80.0	33.1	28.7
中南米	109.9	146.0	77.5	96.1	33.3	50.2
オセアニア	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
アジア	26.2	31.6	71.9	87.8	-46.2	-56.2
中東	0.3	0.4	3.6	3.8	-3.3	-3.4
欧州	2.9	3.6	18.2	21.1	-15.3	-17.6
アフリカ	1.0	1.2	2.7	3.0	-1.6	-1.8
(参考)						
米国	80.1	105.1	51.4	78.2	31.6	27.0
中国	15.3	18.8	49.7	61.6	-34.9	-42.7
E27	0.9	1.0	15.7	18.7	-14.7	-17.7
アルゼンチン	43.0	54.8	34.9	38.4	8.2	16.5
ブラジル	59.0	80.5	34.6	49.2	24.9	31.5

⑥ 植物油

基準年では、北米、中南米が純輸出地域、アジア、中東、欧州、アフリカが純輸入地域となっている。

第7表 植物油に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	70.9	88.9	71.2	88.9	0.0	0.0
北米	12.0	17.5	10.7	10.9	1.3	6.6
中南米	16.2	20.5	8.7	9.1	7.7	11.4
オセアニア	0.3	0.4	0.4	0.4	-0.1	0.0
アジア	22.2	25.3	27.6	43.4	-5.3	-18.1
中東	1.5	1.7	2.5	3.4	-1.0	-1.7
欧州	17.7	22.5	18.0	17.2	-0.3	5.3
アフリカ	0.9	1.0	3.4	4.5	-2.4	-3.5
(参考)						
米国	10.1	15.3	9.9	10.1	0.2	5.2
中国	13.0	14.8	15.8	28.3	-2.8	-13.5
E27	12.3	17.0	14.5	13.5	-2.2	3.6
アルゼンチン	7.8	8.9	1.2	1.3	6.7	7.6
ブラジル	6.4	9.3	4.1	4.4	2.3	4.9

アジア、中東、アフリカでは、生産量も増加するが、それを上回って消費量が増加するため、目標年における純輸入量がいずれも増加する。特に、アジアでは中国における純輸

入量が大きく増加すると見込まれる。これに対して欧州は、E27における生産量の増加が消費量の増加を大きく上回ると見込まれ、純輸入地域から純輸出地域に転じる。

北米、中南米では、消費量の増加を上回る生産量の増加により、目標年における純輸出量が増加する。北米では、米国の純輸出量が大きく増加し、中南米では、主要輸出国であるブラジル、アルゼンチンにおいて純輸出量が増加すると見込まれる。

⑦ 牛肉

基準年では、中南米、オセアニアが純輸出地域、その他の地域は純輸入地域となっている。

アジア、中東、アフリカでは、生産量も増加するが、消費量が大幅に増加し、目標年における純輸入量が増加する。特にアジアでは、中国が純輸出国から純輸入国に転じると見込まれる。これに対して、北米では、米国において生産量の増加が消費量の増加を上回ると見込まれ、純輸入地域から純輸出地域に転じる。欧州では、E27が純輸入国から純輸出国に転じると見込まれることから、目標年における純輸入量が減少する。

中南米、オセアニアでは、いずれも生産量の増加が消費量の増加を上回るため、目標年における純輸出量が増加する。中南米では、主要輸出国であるブラジル、アルゼンチンで、純輸出量が増加すると見込まれる。

第8表 牛肉に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	58.5	71.1	58.5	71.1	0.0	0.0
北米	13.4	16.1	13.9	15.1	-0.5	1.1
中南米	17.5	21.2	14.9	18.3	2.5	2.9
オセアニア	2.8	3.3	0.9	1.0	1.9	2.3
アジア	11.8	15.4	12.8	18.7	-1.0	-3.3
中東	1.1	1.2	1.7	2.4	-0.6	-1.2
欧州	10.5	12.2	12.2	12.6	-1.7	-0.4
アフリカ	1.4	1.7	2.1	3.0	-0.6	-1.3
(参考)						
米国	12.1	14.5	12.8	14.0	-0.8	0.5
中国	6.0	8.4	5.9	9.3	0.1	-0.9
E27	8.1	9.3	8.6	8.9	-0.5	0.4
アルゼンチン	3.2	3.8	2.7	3.0	0.5	0.8
ブラジル	9.1	11.9	7.1	8.9	2.0	3.0

⑧ 豚肉

基準年では、北米が純輸出地域、アジアが純輸入地域となっており、その他の地域では、生産、消費がほとんどないか、生産量と消費量がほぼ拮抗している。

アジアでは、生産量の増加を上回る消費量の増加があり、目標年においては、純輸入量が増加する。特に、中国は、消費量の増加が大きく、純輸出国から純輸入国に転じると見

込まれる。

北米では、米国における生産量の増加が消費量の増加を上回ると見込まれ、純輸出量が増加する。また、中南米では、消費量があまり変わらない中で、ブラジル等で生産量の増加が見込まれることから、目標年においては純輸出地域となっている。

第9表 豚肉に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	96.4	119.1	96.4	119.1	0.0	0.0
北米	11.9	13.9	9.8	10.3	2.1	3.6
中南米	5.5	7.5	5.3	6.5	0.2	1.0
オセアニア	0.4	0.4	0.5	0.6	-0.1	-0.2
アジア	52.0	69.4	54.2	73.5	-2.2	-4.2
中東	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
欧州	26.3	27.6	26.2	27.6	0.1	-0.1
アフリカ	0.2	0.3	0.3	0.5	-0.1	-0.2
(参考)						
米国	10.0	11.2	8.8	9.2	1.2	1.9
中国	45.2	61.1	45.1	62.4	0.1	-1.4
E27	22.4	23.3	21.0	22.0	1.4	1.3
ブラジル	2.9	4.1	2.3	2.8	0.7	1.3
メキシコ	1.1	1.7	1.6	2.0	-0.4	-0.3

⑨ 鶏肉

基準年では、北米、中南米が純輸出地域、アジア、中東、欧州、アフリカが純輸入地域となっている。

第10表 鶏肉に関する地域別予測結果

(単位：百万t)

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2007年	2019年	2007年	2019年	2007年	2019年
世界合計	67.9	88.9	67.9	88.9	0.0	0.0
北米	17.2	21.5	14.6	15.2	2.7	6.3
中南米	16.6	23.4	14.5	16.9	2.1	6.5
オセアニア	0.7	0.9	0.7	0.9	0.0	0.0
アジア	19.8	26.5	21.2	34.0	-1.4	-7.5
中東	2.4	3.3	3.7	6.5	-1.3	-3.1
欧州	10.1	11.9	11.6	13.0	-1.5	-1.2
アフリカ	1.1	1.5	1.7	2.5	-0.6	-1.0
(参考)						
米国	16.2	20.5	13.6	14.1	2.7	6.4
中国	11.2	15.4	11.3	19.4	-0.1	-4.0
E27	8.2	9.6	8.2	9.0	0.0	0.6
ブラジル	10.2	15.3	7.3	8.9	2.9	6.5
メキシコ	2.7	3.5	3.1	3.4	-0.4	0.0

アジア、中東では、生産量が増加するものの、それを上回る消費量の増加があり、目標年における純輸入量の増加が著しい。特に、アジアでは中国の純輸入量が大きく増加すると見込まれる。

北米、中南米では、消費量があまり変わらない中で、生産量が大きく増加し、目標年における純輸出量が大きく増加する。中でも、主要輸出国である米国とブラジルの純輸出量の増加が著しいと見込まれる。

(iii) 1人当たり消費量の予測

穀物、植物油及び肉類について、1人当たりの消費量の予測結果を以下に示す。

また、今後の経済成長に伴い、世界の食料需給に大きな影響を与えると考えられる新興経済国（中国、インド、ロシア、ブラジル）に関する予測結果を参考として示す。

① 穀物（飼料仕向けを含む全量）

目標年における穀物の1人当たり消費量は、基準年に比べて総じて増加傾向にある。

特に、とうもろこしを原料とするバイオエタノールの需要が大きく増加する米国を含む北米で17%増、とうもろこしの飼料用需要が大きく増加するブラジルを含む中南米で10%増、経済成長を背景に穀物消費の伸びが見込まれる中国、インド、ロシアを含むアジア及び欧州で、それぞれ9%増、10%増と、増加率が相対的に高くなっている。

こうした中で、アフリカは、消費量の水準が他の地域に比べて低いだけでなく、その増加率も3%にとどまっている。

第11表 1人当たり穀物消費量に関する予測結果

	基準年(2007年)		目標年(2019年)	
	実数	指数	実数	指数
	kg		kg	
世界合計	314	100	339	108
北米	991	100	1159	117
中南米	306	100	337	110
オセアニア	596	100	608	102
アジア	241	100	263	109
中東	314	100	330	105
欧州	527	100	582	110
アフリカ	197	100	203	103
(参考)				
中国	292	100	318	109
インド	174	100	205	117
ロシア	488	100	541	111
ブラジル	336	100	396	118

② 植物油

目標年における植物油の1人当たり消費量は、既に消費量の水準が高い北米、中南米、オセアニア、欧州において、基準年に比べて減少傾向にある。

これに対して、消費量の水準が低いアジア、中東では、増加傾向にある。特に、高い経済成長率を背景として、増加率が68%の中国と、15%のインドを含むアジアにおいて39%増と増加率が相対的に高くなっている。

他方、最も消費量の水準が低いアフリカでは、水準に変化が見られない。

第12表 1人当たり植物油消費量に関する予測結果

	基準年(2007年)		目標年(2019年)	
	実数	指数	実数	指数
	kg		kg	
世界合計	11	100	12	109
北米	32	100	29	90
中南米	15	100	14	94
オセアニア	15	100	13	89
アジア	7	100	10	139
中東	8	100	9	113
欧州	25	100	23	95
アフリカ	4	100	4	102
(参考)				
中国	12	100	20	168
インド	5	100	6	115
ロシア	16	100	18	112
ブラジル	21	100	21	99

③ 肉類

目標年における肉類の1人当たり消費量は、北米を除いて、総じて基準年に比べて増加傾向にある。

第13表 1人当たり肉類消費量に関する予測結果

	基準年(2007年)		目標年(2019年)	
	実数	指数	実数	指数
	kg		kg	
世界合計	36	100	39	110
北米	114	100	107	94
中南米	61	100	66	108
オセアニア	106	100	108	102
アジア	25	100	32	127
中東	23	100	30	134
欧州	71	100	75	106
アフリカ	7	100	8	109
(参考)				
中国	50	100	68	137
インド	4	100	6	148
ロシア	58	100	67	116
ブラジル	88	100	100	113

特に、これまで水準の低かったアジア、中東において、それぞれ 27 %増、34 %増と増加率が相対的に高くなっている。アジアでは、高い経済成長率を背景に、中国の増加率が 37 %、インドが 48 %となっている。穀物、植物油では増加が見られなかったアフリカでも、消費量の水準は低いながら、9 %増加している。

他方、北米、オセアニア、欧州は、肉類の 1 人当たり消費量が既に高い水準にあるが、北米では減少しているのに対して、ロシアを含む欧州では増加している。また、消費量の水準は既に高いものの 13 %増加しているブラジルを含む中南米でも増加している。

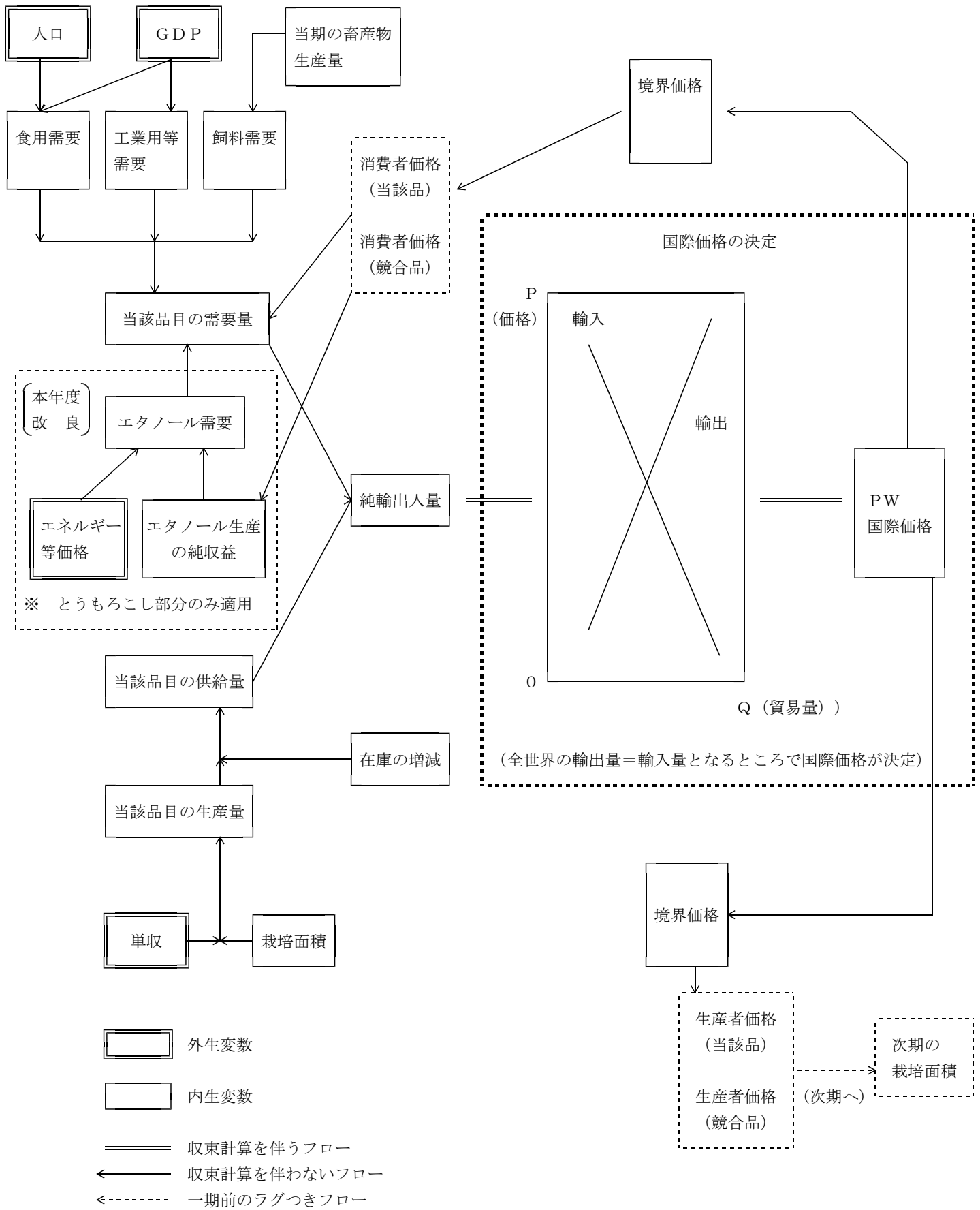
第14表 主要穀物等における生産量、消費量、期末在庫量及び国際価格

(単位：百万t、ドル/t)

		小麦	とうもろこし	米	その他穀物	大豆
2007年	生産量	629	764	433	276	224
	消費量	623	759	428	275	227
	食用等	517	191	428	128	211
	飼料用	106	487	0	147	17
	バイオエタノール原料用	-	81	-	-	-
	期末在庫量	138	126	82	33	53
	国際価格	223	151	447	163	327
2019年	生産量	757	966	519	334	291
	消費量	759	971	520	335	292
	食用等	629	215	520	153	271
	飼料用	130	617	0	182	21
	バイオエタノール原料用	-	139	-	-	-
	期末在庫量	128	108	76	31	47
	国際価格 (実質)	240	177	475	177	362
国際価格 (名目)	302	220	587	217	456	
増減率 (%)	生産量	20	26	20	21	30
	消費量	22	28	21	22	28
	食用等	22	13	21	20	28
	飼料用	23	27	-	24	24
	バイオエタノール原料用	-	71	-	-	-
	期末在庫量	-7	-14	-7	-7	-10
	国際価格 (実質)	8	17	6	9	11
国際価格 (名目)	35	46	31	33	39	

注) 大豆の食用等については、搾油用の消費量も含む。

- 注(1) 「世界食料需給モデル」は、日本大学大賀圭治教授及び農林水産政策研究所古橋元主任研究官が開発した計量モデル開発システムを利用して、昨年度、農林水産政策研究所で改めてモデル開発を行ったものである。
- (2) 各品目の需給表は、基本的に USDA の食料需給表の考え方に準拠しているが、個別の品目の具体的な留意点は以下のとおりである。
- (i) 米は精米ベースである。
- (ii) 牛肉、豚肉、鶏肉、羊肉、鶏卵、牛乳及び畜産物加工品の在庫が需給に及ぼす影響は、データの制約のため考慮していない。
- (3) 基準年の需給に関する数値は、モデル予測のために以下の調整を行っていることから、必ずしも実績値と一致しない。
- (i) 単年度の需給均衡を前提としたモデルであるため、世界全体での純輸出入量がゼロとなるように調整を行っている。
- (ii) 国際価格の不連続な動きを防止するため、世界全体での各品目の生産量と消費量が一致するように調整を行っている。



第1図 世界食料需給モデルの概念図（穀物）